

上海「ミニ」通信

(北九州市 上海事務所から中国・上海の「今」をお伝えします！)

北九州市は、上海市をはじめとする中国の6都市で、日本国環境省、中国環境保護部の指導・助言のもと「中国大気環境改善のための都市間連携協力」事業を、平成26年度より実施し、中国の大気環境の改善に取り組んでいます。

特に、ここ上海では、本市環境局と上海市環境保護局の間で、昨年11月に「環境分野の交流・強化に関する覚書」が交わされ、これまで以上に積極的な交流が進められています。今回はその内容の一部と、この8月11日に上海市側からの要請で本市職員が基調講演を行ったセミナーの内容などについてお知らせします。

平成28年8月15日

【第5回】上海での大気環境改善に向けた本市の取組の「一部」をご紹介します！



【今日のポイント】

- ◆本市と上海市は、昨年11月に、両地域の環境分野における交流の強化に向けた覚書を締結しました。
- ◆この覚書をベースに、今年度は印刷包装、工業塗装、インク製造などの分野で、光化学スモッグなどの原因物質とされるVOC（揮発性有機化合物）の排出抑制に向けたモデル事業づくりなどに取り組んでいます。
- ◆今回、上海市環境科学研究院や上海市印刷業協会が主催する印刷・包装事業者向けセミナーで、本市の内藤日中大気汚染対策担当参事が、本市の紹介や日本のVOC対策などについて講演を行いました。

1 上海市での大気改善分野での協力について

本市は、平成12年から実施したJICA草の根協力事業を活用した環境教育支援を皮切りに、環境分野で上海市政府などと良好な関係を築いてきました。その後、環境省の支援を得ながら、大気汚染分野で協力事業を行い、その結果、昨年11月の覚書締結に至りました。今年度は、VOC排出抑制に向けたモデル事業と、VOCの監視測定技術に関する共同研究を行っています。

このうち、モデル事業では、上海市環境保護局のシンクタンク的な役割を担う上海市環境科学研究院に対し、日本のこれまでの取組や日本発の新技术の紹介を行うなど、VOC削減に向けた国際技術交流を重ねています。

2 「上海印刷業 VOC 削減技術交流セミナー」について

VOC排出源を業種別に見ると、塗料などの有機溶剤を大量に使う塗装業、印刷業の割合が突出しており、これらの業界への啓蒙・規制がVOC削減の近道と言われています。そこで、今回、上海市環境科学研究院などの主催で、印刷関係の事業者に絞った技術交流セミナーが実施されることになりました。

このセミナーで、上海市環境科学研究院の要請により、本市の内藤環境局日中大気汚染対策担当参事が、北九州市の紹介とともに、日本でのVOC対策について基調講演を行いました。

ここでは、①国・都道府県による「法規制」と政府、業界団体などが連携した「自主的取組」を組み合わせた日本のVOC対策の特徴とその削減効果、②VOC対策の実践による副次的効果（作業環境、悪臭などの周辺環境の改善など）、③原材料・プロセスの改善などによる「入口」の対策と、発生したVOCを大気中に放出させないようにする「出口」の両面での対策の必要性、④初期費用・維持運転コストの両面の双方を検討した上で、効果的かつ効率的な対策を行うことの重要性などが述べられました。

この基調講演のあと、既に対策を行っている先進企業の事例発表や、現地企業のVOC削減技術や設備についての技術プレゼンなどが行われました。

3 今後の交流について

上海市では、引き続き、VOC排出抑制に向けたモデル事業と、VOCの監視測定技術に関する共同研究を続けていきます。また、この都市間連携協力事業は、もちろん上海以外の5都市でも活発に行われており、この10月には、各都市の代表が北九州市に一堂に会し、中間報告会が予定されています。

上海市の中国国内での影響力などを考えると、本市が上海市と結んだ覚書の意義の大きさとともに、中国での本市の環境分野での知名度の高さを日々感じます。これは、これまでの市の担当部門・市内企業の皆様の尽力の賜物ですが、翻って、この財産を、上海市との関係の一層の深化、上海での本市のプレゼンスの向上、本市内企業の中国展開のお手伝いにご活用いただくなど、上海事務所として今後考えなければならぬことの多さを痛感する毎日でもあります。



基調講演を行う内藤 環境局日中大気汚染対策担当参事



200人以上の業界関係者が集まり、環境科学研究院の影響とともに、印刷業でのVOC対策の注目の高さがうかがわれました。